

みどりの風

4 2020 (令和2)年 vol.363

今月の表紙

牛舎の朝

(撮影:島田 等様)

第8回 未来に伝えたい農業・農村の風景フォトコンテストで、グランプリを受賞された方の作品です。

- 第66回JA全国青年大会
JA鹿本青年部の原田さんJA全中会長賞を受賞
- 熊本県青協県選出国會議員へ要請
- 新型コロナウイルス感染拡大による支援を要望
- 第8回フォトコンテスト入賞者決定!
- 参議院議員藤木しんや氏コラム
- 参議院議員山田としお氏コラム
- JAあまくさ青壮年部活動報告
- 中央会・連合会からのお知らせ



あぜみち

先月号でも触れたが、新型コロナウイルスの猛威で感染者は増加の一途を辿っており、終息する気配が見えない。

この猛威を受け、外食離れや結婚式等の各種イベントの中止・延期、小中学校の臨時休校により学校給食が停止され、生花や和牛、牛乳の需要が減少するなど、農業分野への影響も始めていることは、新型コロナウイルスへの感染と合わせ大きな脅威となっている。

このような中、3月7日には新型コロナウイルスに関するJAグループ熊本と蒲島知事との意見交換会が行われ、前出の影響を報告するとともに、団体側から風評被害防止や農業者へ無利子融資などの施策を講じるよう要望したところ、県でも農林漁業者向けの金融支援制度を創設する素早い対応が行われた。

3月22日が投票日の県知事選挙は、すでに告示がなされ、選挙戦の幕が上がっているが、この状況を受け現職はその職務を優先し、各地での遊説や集会も自粛、新人候補者も運動を大幅に縮小するなど、異例の選挙戦となっている。

新型コロナウイルスにより県民の県知事選への関心が如実に薄れていることは明らかであり、大幅な投票率の低下が予測される。

しかしながら、県民が農政を含めた県政に関心を示さないことは、我々盟友にとっても由々しき事態である。

我々は、その意志を県政に反映させるため、新型コロナウイルスへ細心の注意を払いながら、粛々と運動を進める必要がある。

発行/熊本県農業者政治連盟

熊本市中心区向子反畑町2-3 電話 096-328-1284

編集責任者 中村 啓宏

発行日 令和2年3月15日・毎月1回15日発行

定価 1部50円(但し、会員の購読料は会費の中に含む)

第66回 J A 全国青年大会 J A 鹿本青年部の原田さん J A 全中会長賞を受賞

全国農協青年組織協議会（J A 全青協）は2月18・19日の両日、東京都港区において、第66回 J A 全国青年大会を開催し、全国の J A 青年部員ら約1500人が参加しました。

本県からは約100名の盟友が参集しました。「J A 青年の主張」では、九州・沖縄ブロック代表として、J A 鹿本青年部の原田実さんが発表しました。原田さんは農業を営むうえで、「やっぱすげえねえ」と思える3人の師匠がいることを紹介。農業が天職であった若くして亡くなった父親。大変な農作業を毎日のように行い、農業以外でも、人とのつながりをとても大事にし、ハウ入農作業中に倒れ、帰らぬ人となった祖父。そして、共に育つ「共育」という考えを、新規就農時の研修先の菊川さんに学びました。この3人の師匠達の志と農業を受け継ぎ、次世代へ繋



▲ J A 全中会長賞を受賞した
J A 鹿本青年部の原田実さん

ぐことで、最後には師匠達から「やっぱお前すげえねえ」と言ってもらいたいと熱く語りました。

J A 鹿本青年部は、同じく「J A 青年の主張」で昨年 J A 全中会長賞（最優秀賞）を受賞された横田大輔さんに続き、2年連続での受賞となります。

この大会は、全国各地から J A 青年部が集い地域間交流を図るとともに、自立農業経営の確立、明るく豊かな地域社会づくりを目指すために相互研鑽を行い、明日からの営農活動の原動力、青年部組織のさらなる発展を目的に開催されています。今大会のスローガンを「Time to Go」さあ行こう！新たな時代に輝き続ける6万の光を合言葉に、ともに新しい時代を創造していく決意を共有しました。



▲ 応援に駆けつけた J A 鹿本青年部盟友たちと

熊本県青協 県選出国会議員へ要請

県青協は2月18日、熊本県選出の自民党国会議員に対し、活力ある地域農業と豊かな地域社会を実現するため、日米貿易協定の予備協議における農業分野の除外等の9項目を盛り込み、要請を行いました。

前本委員長は「大規模農家・法人等の育成対策はもとより、中小規模・家族農業についても、生産者が将来展望を描ける安定的な農業経営が継続できる政策の確立と、中山間地域における、インフラ等を含めた生産基盤整備などの地域政策確立に向けた万全な施策と予算措置を講じることが重要」と訴えました。

要請に対し、野田毅衆議院議員は「日米貿易協定予備協議、防疫体制強化対策など様々な課題を抱える中で、要請内容を真摯に受け止め、皆様と共に熊本の農業を守っていただけるよう頑張りたい」と述べました。



▲ 熊本県選出国会議員へ要請書を手渡す
県青壮年部の前本委員長(手前中央)

新型コロナウイルス感染 拡大による支援を要望

J A グループ熊本は3月7日、新型コロナウイルス感染症拡大による県内農業への影響について、熊本県と意見の交換を行いました。

県からは蒲島郁夫知事の他、農林水産部の幹部らが出席。J A グループ熊本からは J A 熊本中央会の宮本隆幸会長ほか4連合会の会長が参加し、「イヘントや卒業式が中止になり、花が採算割れしている」「枝肉相場はこの5年間で最安値。このままでは肥育農家が倒産する」と訴えました。

蒲島知事は「県内でウイルスを拡大させないようにしたい。経済の影響を最小化するよう努めたい」と応えました。3月から小・中学校の給食が停止、卒業式や送別会などの行事が中止となり、酪農や肉用牛、花卉への影響が懸念されるとし、風評被害や無利子融資などの対策を求めました。

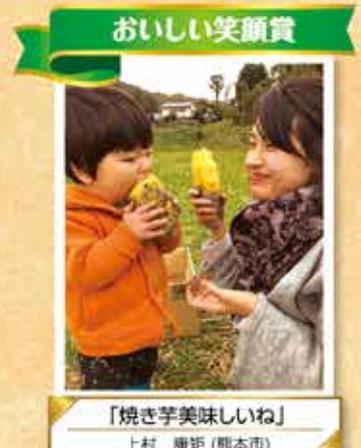


▲ J A グループ熊本の代表者から要望を受け
回答する蒲島知事

第8回

未来に伝えたい農業・農村の風景 フォトコンテスト入賞者

令和元年6月～令和2年1月末まで実施したフォトコンテストに、県内外162名の方々から536点の応募があり、次の25作品が入賞しました。



入 選

前田 高光 (熊本市)
山本 勇夢 (熊本市)
森 博茂 (佐賀県)
大崎 満洲美 (葦北郡)
宮森 誠一 (大分県)
木戸 佑一郎 (玉名市)
岡部 秀朋 (熊本市)

山川 信雄 (宇土市)
岡本 明日香 (玉名市)
前田 正憲 (熊本市)
日當 國親 (八代市)
日當 よし子 (八代市)
平岡 健三 (八代市)
片桐 宏子 (八代市)

村上 利美 (阿蘇市)
野田 純一 (宇土市)
江藤 博文 (阿蘇郡)
林田 孝介 (八代市)
平野 竜太 (山鹿市)
高松 礼子 (阿蘇郡)

全国農政連推薦・農政連公認
参議院議員藤木しんやの

永田町でも「百姓宣言」

「新型肺炎に混乱」

「新たな脅威に生活が一変」

中国湖北省武漢市を発端とする新型コロナウイルス感染症は、最初の患者の発覚からわずか2カ月で世界に広がり感染が拡がっています。亡くなられた方々に謹んでお悔やみを申し上げますとともに、被害された皆様に心よりお見舞い申し上げます。また、被害された皆様の早期回復と感染の早期終息を心よりお祈り申し上げます。

我が国におけるこれまでの感染防止対策は十分だったのか。クルーズ船の対応など様々な意見が飛び交っています。生活面についても依然としてマスクが入手困難であることに加え、一部SNS等で発信された情報により、ティッシュやトイレトーパー等の消耗品も店頭から姿を消しました。また、大規模な会議や研修会、飛行機や鉄道を利用する長距離移動、懇親会等が中止や延期になり、さらには政府が発表した全国小中高の臨時休校への対応。これまでの生活が一変し、今後への不安や苛立ちが募るなかではあります。一人ひとりが冷静な行動をお願いします。

私たちは、特に農業分野において新型コロナウイルス感染症による影響を見極め適切な対応を取っていききたいと

考えています。農水省に設置された対策本部を中心に関係団体や有識者の意見をしっかりと聞いていきます。今は一人ひとりが踏ん張る時。頑張りましょう。

「2年連続で熊本県代表が全国制覇」

2月18日・19日に開催された第66回JA全国青年大会で実施されたJA青年の主張全国大会においてJA鹿本青年部山本支部の原田実君が全国制覇という快挙を達成しました。また熊本県勢は昨年も同大会で全国制覇を果たしており2年連続の快挙となります。

農業への情熱と仲間との存在。地域全体で何を受け継いでいくのか。多くの参加者の心を打つ力強いメッセージでした。本当におめでとうございました。また、JA全国女性大会にも出席させていただき地域の圧倒的なパワーを感じました。



▲第66回JA全国青年大会開会式で激励

全国・農政連推薦
参議院議員山田としおの

農政問題に斬り込む

「食料・農業・農村基本計画の見直しの検討について」

「5年ごとの改訂論議が終盤に」

私が事務局長を務める党の農業基本政策検討委員会では、基本計画の見直しのため、議論を重ねています。その前後には、少人数幹部会（インナー会合）、農林役員会でも議論し、多忙な日々を過ごしています。

私は、議論の本格化の中で、自身自身の基本姿勢として、7項目の考え方をまとめていました。

一つは、担い手の圧倒的な高齢化で、地域の力が圧倒的に弱っていること

二つは、政策の方向として、規模拡大、力強い担い手づくり、競争力ある経営体づくりの方向にあるが、そのことが、逆に、ただでさえ弱くなっている地域の助け合いや協同の力を削いでいることであり、現場と各自治体農政をむすぶ機能の充実、地方農政局等との連携や体制の強化が必要なこと

三つは、農外の農地所有適格法人等による株式会社の参入がすすみ、大規模法人化が政策の方向にあるということと、農業集落や市町村域の農業経営づくりの熱意が弱くなっていること

四つは、平成29年に、農村産業法（旧・農工法）と地域未来投資促進法が成立し、業種が制約されているとはいえず、優良農地の企業用地への転用を許可する例が拡大していること

五つは、新たな農業就業者の確保に全力を上げる必要があること

六つは、県・市町村等自治体は、国と協力して、農地中間管理機構の活動強化をはじめ、JA、地域の農業委員会、土地改良組合等との取り組み強化に全力を上げ、集落等の課題の把握と、その解決に向け、体制強化と問題解決にあたること

七つは、以上の視点で、農水省をはじめとする関連する各省庁の中央・地方間の事業の見直し強化を進める必要があること

これらの事々について、私は、各会合で発言して、都度、取りまとめに盛り込み、少人数幹部会でも発言し、賛同の意見をいただけてきました。引き続き、具体的な政策確立に全力をあげます。

なお、2月18日に、日本経済団体連合会（経団連）は、新たな「食料・農業・農村基本計画」に対する意見として、「企業による農地所有の全面的な容認」「農地所有適格法人への出資規制緩和」を主張しています。納得できませんし、私は、党として、きちんと反論の申し入れを行うべきだと発言しています。

皆さんとともに、頑張ります。

J Aあまくさ青壮年部活動報告

J Aあまくさ青壮年部は、7支部(佐伊津・新和・天草町・河浦・牛深・有明・大矢野)82名で活動しています。

天草地域は、温暖な気候を生かした様々な農業が行われており、青壮年部員も畜産・果樹・野菜・花卉・水稲の農家で構成されています。その中でも、天草の農業の特徴である果樹農家が部員の3分の1を占めています。

J Aあまくさ青壮年部 意見交換会



▲グループ討議を行う部員

昨年1月30日にJ A天草会館において「J Aあまくさ青壮年部 意見交換会」を行いました。J Aあまくさ管内7支部より12名の参加のもと、青壮年部の現状・課題およびその解決策について

ワークショップ形式(グループ討議)で行いました。

初めての試みということもあり、最初はどのように進めれば良いのかわからず、意見が出ませんでした。徐々に活発な意見交換が行われました。

共通の課題としては、部員数の減少が挙げられました。この課題に対して部員からは「青壮年部への勧誘の声かけがまだ足りない。」などの意見が出ました。今後このような意見交換の場を設け、青壮年部の部員自らが、自分たちの青壮年部について考える機会を増やしていきたいと思えます。

また、このような青壮年部員同士の意見交換を通して、J Aへの意見を



▲話し合った結果を発表するグループの代表

りまとめ、J A常勤役員との意見交換等に繋げ、J Aの事業運営に積極的に参画していきます。

牛深支部 農村地域環境美化活動

牛深支部では昨年9月18日に、「農村地域環境美化活動」を実施しました。

この活動は、見通しの悪い道路のカーブミラーの清掃や道路沿いのゴミ拾いを行い、農村の景観維持、農作業中の事故防止を目的に毎年行っています。

年々、青壮年部員数の減少および高齢化に伴い、この活動への参加者も減少しています。しかし今後も、この活動を継続し、自分たちが営農を行う地域の景観・安全を自分たちで守り、地



▲カーブミラーを清掃する青壮年部員ら



▲支部長もがんばりました!



▲参加した牛深支部の部員

域社会へ貢献する活動をこれからも継続していきます。

県域で初めてのJA農福連携研修会を開催

JA熊本中央会は2月12日、熊本市で県域として初めての農福連携研修会を開きました。農業側と福祉側との相互理解を深め、今後の取り組みを活性化するのが目的です。福祉施設、行政、JAなどから約80人が参加しました。

「歩」と題して講演しました。豊田准教授は農作業が人の脳を活性化させることや、障がい者の特性に合った作業があることを説明し、「農業側と福祉側とが連携して農作業の難度を分析・理解し、障がい者の特性に合わせたマッチングを図ることが必要」と強調しました。

農福連携の推進は、農業労働力不足の改善と、障がい者の就業機会の確保や作業工賃の向上につながります。中央会は、2019年度から農福連携コーディネーターと協力して各JAへ情報提供などを行っていましたが、今後は福祉側とのマッチングの増加を図るため、農作業や選果作業の現地確認やお試し会などの実施を働きかけていきます。

研修会では、兵庫県立大学の豊田正博准教授が「農福連携 始めの一



▲研修会の様子



▲兵庫県立大学の豊田正博准教授



▲社会保険労務士の西原さん

JA共済の地域貢献活動のご紹介

地域に安全と安心の輪を広げる

JA共済は様々な地域貢献活動を通じて地域の皆さまが健康で安心して暮らせる豊かな地域環境づくりに取り組んでいます。

1.交通安全ミュージカル

魔法園児マモルワタルと一緒に、楽しみながら交通ルールを学びます。



2.書道・交通安全ポスターコンクール

小・中学生を対象に、助け合いと思いやりの気持ちを伝え、交通安全への意識を高めてもらうために毎年開催しています。

令和元年度
文部科学大臣賞
玉名市立玉水小1年▶
笠 悠聖さん



3.スタントマンによる自転車交通安全教室

危険な自転車走行による交通事故の実演(スタントマン)により、中高生に交通事故の危険性を疑似体験していただく教育事業を支援しています。



6.介助犬の育成・普及支援活動

「介助犬」の育成と普及支援を通じて、交通事故被害者の社会復帰を応援しています。



5.安全運転診断

ドライビングシミュレーター搭載車両「きずな号」で巡回型の安全運転診断を開催しています。



4.シルバー世代向け交通安全教室

「交通安全落語」や「交通安全インポー体操」などを組み合わせ、誰でも楽しく参加できる交通安全教室です。



くまもとトマトまつりを開催!

JA熊本経済連と熊本県(一社)熊本野菜振興協会は2月2日、合志市熊本県農業公園カントリーパークで「くまもとトマトまつり」を開催しました。日本一のトマト産地である熊本県の生産者やJAグループ、県が一丸となり、消費者にトマトやミニトマトをよりおいしく、健康的に食べてほしいとの思いから開催しました。

同会場で開催していた「JA植木まつり」の来場者に向け、JA女性部らによるトマト料理の試食・紹介やトマトすぎ焼きセットなど豪華賞品が当たる抽選会等が行われ、多くの来場者で賑わいました。

主催者の蒲島郁夫熊本県知事は「熊本県のトマトは全国で食べられている。リコピンなどに良い成分が豊富に含まれており、皆さんにもトマトを毎日食べて健康に過ごしてもらいたい」とあいさつしました。また、経済連の加末誠一会長は「トマトの生産量は熊本県が全国1位。弊社でも「トマトプロジェクト」を立ち上げ、新しく発見された機性能成分・エスクレオサイドAを生かし、引き続き販売促進活動に取り組み、更なる消費拡大に努めていく」と力を込めました。

会場では、エスクレオサイドAの機性能健康効果に関するパネル展示や機械にタッチするだけで健康度合

が測定できる生活習慣チェック等もありました。

「エスクレオサイドAとは」

2003年に熊本大学薬学部の野原名誉教授と藤原先生(現、医学部講師)によって発見され、その後、同医学部の永井教授(現、東海大学)との共同研究によって「エスクレオサイドA」による動脈硬化の抑制効果が、世界で初めて確認されました。

「エスクレオサイドA」はコレステロールの吸収を抑制し、血管に脂肪をつきにくくする働きがあります。一般的によく知られている「リコピン」と比べ、約6倍〜約21倍も多く含まれているといわれています。トマトにもミニトマトにも含まれ「1日にミニトマト3粒を目安に食べると十分な効果が期待できる」と永井教授は話します。



▲あいさつをする加末会長



▲豪華賞品があたるトマトボール投げ抽選会

令和元年度熊本茶振興大会

経済連茶生産流通協議会 茶共進会表彰式を開催

特等

- 【普通煎茶の部】
福本勝さん (JA菊池)
- 【蒸製玉緑茶の部】
右田健一さん (JA熊本うき)

熊本県経済連茶生産流通協議会(事務局)JA熊本経済連)は2月4日、くまもと茶ブランド確立対策協議会(事務局)熊本県)と共同で、令和元年度熊本茶振興大会を開催しました。

昨年7月に行われた茶共進会の表彰式を行い、生産者やJA、県茶商業協同組合、行政など約120人が出席しました。

同共進会には普通煎茶14点、蒸製玉緑茶32点の合計46点が出品され、普通煎茶の部4人、蒸製玉緑茶の部7人、共販賞24人、特別賞1人と産地賞にJAあしきたが選ばれました。

審査長の小島裕二経済連産産部長は「令和元年の一番茶は3月に夜温が上がらず、平年に比べ遅い萌芽・摘採となったが、晩霜被害はほとんど見られず良質な生産が行われた。出品された力作は「くまもと茶」のレベルの高さと生産者の日々の努力が伺えるものだった」と講評しました。



▲普通煎茶の部特等の福本さん(左)と蒸製玉緑茶の部特等の右田さん(右)

おもな上位入賞者は次のとおり

- ◆普通煎茶の部
- ▽特等 福本勝 (JA菊池)
- ▽一等 市川辰太 (JA熊本うき)
- ▽二等 坂口和憲 (JAあしきた)
- ▽三等 野田仁 (JA菊池)
- ◆蒸製玉緑茶の部
- ▽特等 右田健一 (JA熊本うき)
- ▽一等 西本武司 (JAあしきた)
- ▽二等 山村孝一 (JAくま)
- 坂口新一 (JAあしきた)
- ▽三等 福岡利幸 (JAくま)、工藤実代子 (JA菊池)、右田真由美 (JA熊本うき)
- ◆産地賞 JAあしきた
- ◆特別賞 福岡利幸 (JAくま)
- ◆共販賞
- ▽優秀賞 上田茂政 (JA菊池)、松山勇 (JAくま)、菅野隆二 (JAくま)、赤坂優二 (JAくま)、福岡利幸 (JAくま)、松山剛 (JAくま)、大場博文 (JAくま)

放送時間が
変わります。

毎週 **金** 曜
よる7:54~

伴都美子と
Agri de キッチン

毎週 **日** 曜
夕方5:55~

DoYou?
のうぎょう?
+プラスワン

KABで絶賛放映中の「DoYouのうぎょう?+プラスワン」と「伴都美子とAgri de キッチン」は令和2年4月放送分から、放送時間を変更してお送りいたします。

働くわたしの
ミネール
生活障害共済

なないろ
デザイン

くらしの保障、相談するなら **JA共済**
19481050140

みんさん
ご存知ですか?

トマトの新発見!!
驚きの新機能性成分!
“エスクレオサイドA”

トマトで若々しく!
血管美人をめざそう!

“エスクレオサイドA”とはサポニンの一種で、コレステロールの吸収を抑制し、血管に脂肪を付きにくくする働きがあります。血管の内側に脂肪がたまってくると、脂肪のこぶが出来たのですが、こぶができてくると血流を邪魔します。そこで、この“エスクレオサイドA”が過剰な脂肪の蓄積を除去し、健康的な若々しい血管を維持できるということです。

ミニトマト
1日3粒の新習慣!

“エスクレオサイドA”は熱に弱いので、トマトを生で食べるのが、“エスクレオサイドA”を効果的に摂る方法です。永井教授の話によると“1日にミニトマト3粒を目安に食べると十分な効果が期待できる”とおっしゃっていました。

JAグループ熊本 / 熊本県青果物消費拡大協議会

●盟友の皆様のご意見や周辺地域の話題、写真などをお寄せ下さい。
連絡先 熊本県農業者政治連盟
JA熊本県会館10階
(電話) 0996-3280-12884
(FAX) 0996-3286-58007

第8回 未来に伝えたい農業・農村の風景フォトコンテスト入選作品の1点です。一匹の蜂が一生で集められる蜂蜜の量は、ティースプーン一杯分といわれています。蜂蜜を作れるのはミツバチだけです。蜜を持ち帰った蜂は、集めてきた花の蜜を蜂の酵素で分解し、蜂の羽ばたきで余分な水分を、時間をかけてじっくり、飛ばし熟成させ、蜂蜜が完成します。その蜂蜜は、身体の組織を作るミネラルや殺菌作用のあるグルコン酸など、たくさんの栄養で作られています。

「養蜂の丘」

(撮影場所:南小国町)



撮影者 岡部 秀朋様(熊本市)

あ
と
が
き

